

氏名(国籍)	エバ ニルファ アクタ (バングラディッシュ)		
学位の種類	博士 (ヒューマン・ケア科学)		
学位記番号	博 甲 第 4373 号		
学位授与年月日	平成 19 年 3 月 23 日		
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当		
審査研究科	人間総合科学研究科		
学位論文題目	A Study on Social Prevention of HIV/AIDS/STDs among Commercial Sex Workers at Tangail in Bangladesh (セックスワーカーの HIV/AIDS/STDs の社会的予防研究 -バングラディッシュ, タンガイル地区において-)		
主査	筑波大学教授	保健学博士	宗 像 恒 次
副査	筑波大学助教授	保健学博士	武 田 文
副査	筑波大学講師	Ph. D.	近 藤 正 英
副査	筑波大学教授	博士 (医学)	高 橋 正 雄

論文の内容の要旨

(目的)

本研究はバングラディッシュ国ダッカ市タンガイル地区のセックスワーカー (Commercial Sex Workers, 売春従事者) の HIV/AIDS/STD 予防のために、イスラム国において HIV/AIDS のピアエデュケーション法 (仲間教育法) を用いて、HIV/AIDS/STDs 知識やコンドーム使用行動や自己効力感や差別防止行動を促す介入研究をおこない、その教育効果の検討をおこなうものである。

(対象と方法)

研究課題 (1) では、2004 年にダッカ市タンガイル地区の路上セックスワーカー 196 名と置屋セックスワーカー 112 名に対して、HIV/AIDS 知識、収入、教育歴、コンドーム使用行動、その自己効力感などについて調査するために自己記入式質問紙調査と半構造化面接調査を実施した。

研究課題 (2) では、2005 年に同地区の A 置屋所属のセックスワーカーを対象に、HIV/AIDS/STDs 予防のためのピアエデュケーターを養成し、そのプログラム実施の前、後、1 ヶ月後にピアエデュケーター 25 名とその対象者 25 名の HIV/AIDS/STDs 知識レベル、コンドーム使用行動、その自己効力感、1 日客数などを調査した。

研究課題 (3) では、7 ヶ月後のフォローアップ調査をおこなうこと、また A 置屋の 1000 名の中からランダムに選ばれた 25 名の非介入者のセックスワーカーを対象に、HIV/AIDS の知識、コンドーム使用行動、その自己効力感、エイズ差別意識について調査を実施した。

(結果)

セックスワーカー全般に正しい HIV/AIDS 知識の欠如がみられ、コンドーム常用行動は低い。特に路上セックスワーカーの問題が大きい事が明らかとなった。HIV 予防のためのコンドーム常用行動は、彼らの

年齢、収入や教育背景がそれらの要因を決定づけるものであることも明らかとなった。またそのコンドーム使用行動の交渉力の欠如には教育歴の低さが関係していることが明らかになった。

2005年7～8月にHIV/AIDS予防法のためのピアエデュケーション法が実施された結果、前、後、1ヶ月後と経過して知識水準の向上のみならず、コンドーム常用行動の自己効力感の有意な上昇がみられた。また7ヵ月後の追跡調査でもさらに効果が有意に高まっていたことと、さらにはピアエデュケーションの対象外のセックスワーカーにもその影響が知識レベルでは波及して高まり、ピアエデュケーション教育介入対象と介入対象外とセックスワーカーの間に知識レベルでは有意差はみられなくなっていた。しかしながら、コンドーム使用行動の自己効力感においては、教育介入対象者と非対象者に差があることが明らかとなった。

(考察)

セックスワーカーのピアエデュケーション法によるエイズ教育は、イスラム国家のバングラディッシュにおいては初めてのものとなったが、他国の場合と同様に仲間による教育効果は大きく、今回のピアエデュケーション教育の介入対象外にもその教育効果が波及するものであった。それは仲間の集団規範の変化や、新しい知識やスキルが早期採用者から中期、晚期採用者へと波及していくものと説明できる。また今回の開発したHIV/AIDSの新しい予防行動学習へのロールプレイング法は構造化されており、学習効率の高いものであることが明らかとなった。

審 査 の 結 果 の 要 旨

伝統的なイスラム文化の中でのエイズ教育の実施は大変困難なものである。が、著者はイスラム宗教関係者、警察、置屋経営者、セックスワーカーリーダーへの周到的な交渉によって介入研究が実現できた事は、他のイスラム国家でのエイズ教育への普及を促すものになると思われる。著者のエイズ教育実践者としての能力の高さを評価できる。また行動科学的な手法を用いて、エイズ教育の構造化ピアエデュケーション法の開発とその効果を前向き調査で科学的にも立証しえたことを評価したい。またその業績の一部は権威ある国際学術雑誌にも受理され、国際的な評価をもえることとなった。

よって、著者は博士（ヒューマン・ケア科学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。